

編集後記

挟間史談会が発足してまる七年になりますが、今回誌「挟間史談」の創刊号を上梓する運びになりましたことを会員の皆様とともに心より喜びたいと存じます。

地方史と言ひ郷土史とも言われる郷土の歴史を研究する人々の思ひは、先人の生活やその遺跡に触れてロマンに浸ろうとする人、先祖の事績にあやかり今後の生活の糧にしようとする人、はたまた本格的にアカデミックに史実を極めようとする人など各人各様にさまざまであると思います。しかしながら歴史を愛するという一点において共通項をもつ人々の集いが挟間史談会であります。今後とも挟間の歴史を地道に掘り起こして地域の発展に少しでも貢献をしたいと念じています。

本号では「特集・狭間氏の研究①」で二本の論稿を頂きました。

これまで必ずしも正確に伝えられてこなかったきらいのある大友支族・狭間氏の歴史に少しでも光を当てる事が出来たらと期待しています。狭間氏に関連して挟間市の恵比寿神についての二宮壽氏の論稿「下市市恵比寿について」は氏の日頃の探究の成果であります。

加藤照廣氏の「来鉢神社の沿革」と牧達夫氏の「挟間町の沿革と農業水路の偉人・工藤三助のこと」は、石城川地区と谷地区においてともに地域に深く根を下ろし住民の生活に深くかかわってきた人と人の物語であります。力作をご一読ください。

坂本勝信氏、久保田昌兌氏、佐藤龍江氏には歴史に寄せる深い思いを頂きました。

ご専門の農村社会学で斯界につとに著名な二宮哲雄氏には巻頭言とその補講的な意味を持つ「歴史は未来からスタートする」の二本の論文を頂きました。「歴史家はロマンチストであれ」と説き、「歴史は未来からスタートする」と諭す論旨を凡人の私が理解するのは少々難しい気が致しますが、再読、熟読しましょう。

本号の発行に当り、原稿の電子データ化、校正等編集全般にわたり佐藤周太氏のご尽力に負うところ極めて大でありました。ここに記して謝意を表します。

編集委員長 佐藤末喜

挟間史談 創刊号

(非売品)

編集 挟間史談会 事務局長 二宮修一

連絡先・〇九七―五四三二―三三四四

発行人 挟間史談会 会長 河野百雄

発行日 平成二十二年四月

印刷所 三和印刷出版株式会社